

進路と学習を考える

前高ジャーナル



発行 群馬県立前橋高等学校

(編集 進路指導部)

〒371-0011 群馬県前橋市下沖町 321-1

TEL: 027-232-1155 FAX: 027-233-1046

Email: maebashi-hs@edu-g.gsn.ed.jp

2024 年度大学入試を振り返って

◆2024 入試トピック◆

○共通テスト志願者数は 32 年ぶりに 50 万人を下回る

1. 大学入学共通テスト

令和 6 年 1 月 13 日(土)・14 日(日)の日程で大学入学共通テストが行われた。共通テストの日程として最も早いものであった。前年までとは異なり新型コロナウイルス感染症の影響は大きく緩和した。志願者数は 6 年連続減少となり 32 年ぶりに 50 万人を下回った。現役志願率は 45.2%で過去最高となり、近年の現役中心の入試の流れが継続している。

科目別では国語、生物、生物基礎で平均点がアップした。ベネッセ・駿台の予想では、900 点満点の平均点で文理系ともアップとなっているが、文系は 4 点、理系は 8 点の僅かなアップであった。(【表 1】) 分布として得点率 8 割を超える高得点帯の人数は微増した。

前高生の受験会場は昨年に引き続き高崎健康福祉大学だった。265 名が受験し前高生の 5 教科平均点もアップした。(【表 2】)

【表1】5教科(900点満点)平均点

年度	全国*		前高	
	文系	理系	文系	理系
2020	548	559	665.4	638.4
2021	552	572	670.5	670.3
2022	508	513	612.9	613.1
2023	532	551	631.7	645.2
2024	536	559	644.0	646.4

*全国平均はベネッセ・駿台による推測値
2023理系は得点調整後

【表2】主要科目の平均点<全国>

年度	2023	2024	差
国語	105.7	116.5	10.8
世界史B	58.4	60.3	1.9
日本史B	59.8	56.3	-3.5
地理B	60.5	65.7	5.3
数学ⅠA	55.7	51.4	-4.3
数学ⅡB	61.5	57.7	-3.7
物理	63.4	63.0	-0.4
化学	54.0	54.8	0.8
生物	48.5	54.8	6.4
英語(リーディング)	53.8	51.5	-2.3
英語(リスニング)	62.4	67.2	4.9

大学入試センター発表資料による
2023理科②化学・生物は得点調整後の数値

2. 国公立大学二次試験

国公立大学の志願者は前年並みだった。(【表 3】) 難関国立 10 大学の全体の志願者数は微増であった。前年に比べて増加が著しかったのは東北大学だが、前年度に志願者を減らした反動かもしれない。前年度新設で人気を集めた一橋大ソーシャル・データサイエンスの志望者数は落ち着きをみせている。国立大学において志願者の

【表3】国公立大学志願状況(独自日程は除く)<全国>

設置	2023年度			2024年度			志願者 前年比
	募集人員	志願者数	倍率	募集人員	志願者数	倍率	
国立	76,327	298,305	3.9	76,339	299,715	3.9	1.410
公立	22,388	124,826	5.6	22,527	123,523	5.5	-1.303
計	98,715	423,131	4.3	98,866	423,238	4.3	1.07

駿台資料による

増加数最多は鳥取大学、減少数最多は山口大学だったが、いずれも前年度の反動の影響が考えられる。

前高生の国公立大学合格状況と難関国立 10 大学合格状況についてまとめた(【表 4・5】)。現役国公立大合格者数は 150 名であった。昨年に引き続き第 1 志望大学への挑戦を大切に生徒が多数いて頼もしく感じている。特に東大に出願した生徒が 26 名いたことは誇らしい。1 名が学校推薦型選抜で合格し、残る 25 名全員が第 1 段階選抜を突破し 2 次試験に挑戦したところの意義は大きい。医学科現役合格は学校推薦型選抜を含めて 13 名だった。

既卒生も東大 1 名合格、国公立大医学部医学科 13 名合格など健闘した。

【表4】国公立大学合格状況<前高>

設置	現浪	2020	2021	2022	2023	2024
国立	現	148	143	165	127	134
	浪	58	33	32	34	35
公立	現	22	13	18	11	16
	浪	8	3	4	3	5
計	現	170	156	183	138	150
	浪	66	36	36	37	40

令和6年4月作成「進路概況」による

2020 は 8 クラス、2021 以降は 7 クラス

【表5】難関国立10大学合格状況

(数字は現役+既卒生(現役)。-は出願なし。)

大学	2020	2021	2022	2023	2024
北海道大	7(6)	6(5)	9(4)	6(2)	10(7)
東北大	22(18)	16(15)	23(22)	13(10)	10(9)
東京大	5(1)	7(4)	11(10)	5(3)	7(6)
東京工業大	1(1)	2(2)	3(3)	1(1)	2(1)
一橋大	2(1)	1(1)	1(1)	1(1)	3(2)
名古屋大	2(1)	2(1)	3(2)	3(2)	0(0)
京都大	5(5)	7(6)	8(5)	7(7)	4(3)
大阪大	6(5)	2(2)	2(2)	0(0)	4(3)
神戸大	-	-	1(1)	2(1)	1(1)
九州大	-	1(1)	-	1(-)	2(1)
計	50(38)	44(37)	61(50)	39(27)	43(33)

令和6年4月作成「進路概況」による

3. 私立大学一般入試

私立大学の一般選抜入試(推薦・AO 入試等の特別選抜入試を除く)の延べ志願者数は約 310 万人前後になると予想され前年度並みと考えられる。志願者の増加数が最も多かったのは東洋大学で減少数が最も多かったのは日本大学である。学部別では医学部の志願者増が見られるが医学科志望者が併願校数を増加している影響が考えられる。

前高の卒業生総数に対する私立大学出願数は約 4.8 で昨年より約 0.6 上昇した。前高の卒業生総数に対する合格者実数の割合は 88%であり高い水準を保っている。面談を重ねる中で志望校群が練られていることによる好結果と考えられる。

今年4月作成の「進路概況」の一部を前高 Web ページに掲載しています。また、6月発行予定の『進学の手引』資料編に全データを掲載します。

人生、意気に感ず

令和5年度第3学年主任 **松本 拓也**

体育館が満席となった卒業式。ようやくフルスペックでの卒業式を開催することができた。全員がマスクを外し、堂々と前橋高校を巣立っていった。



2024年3月
卒業式

入学次はまだコロナ禍で、全員がマスク着用で前高の門をくぐった。入学しても分散登校などが途中にあり、学校行事はギリギリの状態で行われた。その中でも中学時に彼らが行けなかった修学旅行は、何としても高校では行かせてあげたいという思いから、例年の沖縄旅行を早急に改め、第2案、第3案と保険をかけながら旅行行程を準備し、最終的に3泊4日で広島・京都へ行くことができた。コロナ禍にあった1, 2年次であったが、お客さんを入れた蛟龍祭も実施することができ、何とか生徒には前高の学校行事を経験させてあげることができた。そして3年次。ようやくコロナが5類となり、通常通りの定期戦が出来る見込みが持て、二渡校長先生も教職生活最後の定期戦ということで、学校全体を今まで以上にリードして下さり、生徒達は過去最高のテンションで、第77回定期戦に挑んだ。3年生は3年生らしく下級生を引っ張り、下級生もその熱に応えてくれた。



2023年9月
第77回定期戦団結式

制限を受けることが多かった3年間であったが、その中で何ができるのか、どう工夫すれば良いのか、生徒達はそれぞれが自身のできることを考え、行動に移していった。まさにこれが社会に出て役立つ力であり、彼らは前高生活を過ごすことで社会人基礎力もしっかりと育んでいった。

表ページは大学合格実績が記載されているが、真に大切なことは、その数がどうだったかということではない。その数に表れなかった生徒達も、高い目標に向け愚直に努力し、真摯に自分を見つめ挑戦していった。真に努力した裏打ちのある挑戦こそ、人生を豊かにするものである。高い目標に敗れた生徒がこう話した。「自分に足りなかったことが何か分かり、本当に苦しかったけれど志望を落とさず、高い目標に挑戦できたことは、とても貴重な勉強になりました。そして親にも、こんな自分を支えてくれてとても感謝しています。先生達にご指導いただき3年間ありがとうございました。」前高生とはこういう気概を持った男児の粋である。今後彼らが社会に出て、リーダーとして活躍するときに、高い壁にどう向き合い突破していけば良いのか、失敗したら次はどう克服していけば良いのか、困ったときはどのように他者を頼れば良いのか、こういったことを前高は学べる学校である。様々な情報が簡単に手に入る今の時代だからこそ、数字に踊らされず、自分の中にある信念に基づき行動することが大切なのだ。



2024年3月
卒業式後パフォーマンス

卒業式後のパフォーマンスでは、前高生らしい堂々とした姿を見ることができた。卒業生だけのパフォーマンスで終わらず、在校生も巻き込んだワッシュョイの中に、彼らが後輩達を想い、前高精神を引き継いでいてもらいたいという願いが見えた。卒業式後にNHKの取材を受けた第77代定期戦実行委員長を務めた近藤奎太は、「パンデミックがあって学校がスタートし、でも、仲間達の顔がだんだん見えてきて、楽しく最終的には生活ができた。」と応えている。この「楽しい」という中には、実長としての苦しさや大変さも含まれているのだろうと感じた。2024年3月1日に前高を巣立った生徒達。君達の今後の活躍に期待しています。頑張れ!

最後に、学年を支えていただいた多くの先生方。日々の授業や部活動に熱心にご指導下さり誠にありがとうございました。そして校長先生、教頭先生。自分の運営方針に自信と勇気を与えていただき感謝申し上げます。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

充実した3年間を過ごさせていただき、ありがとうございました。